

令和6年度(2024年度) 事業報告書

運営主体：社会福祉法人大阪府社会福祉事業団
施設名：豊中市立養護老人ホーム永寿園とよなか

1、事業の執行概要

高齢者施設の外の世界では、所謂「コロナ禍」を脱した感のある1年となりましたが、高齢者が重症化する病気であることに変わりはないため、職員・来園者はもとより入所者にも共有スペースでのマスク着用・アルコール手指消毒のお願いを継続しました。

実際に新型コロナ感染について、職員が散発的に陽性となったり、2月には入所者4名が同時に陽性となったりするなど、感染症対策を緩める目途が難しい状況で現在に至っております。

一方で、徐々に外部ボランティアの施設内活動や近隣住民の方の施設利用について緩和していきました。クラブ活動については、民謡端唄クラブ、華道クラブ、で外部ボランティア講師を依頼し、民謡端唄クラブでは、練習成果を大阪府社協主催の堺市で開催された養護老人ホーム演芸大会で舞台発表致しました。

外出支援として毎月2回程度の買い物は入所者アンケートに基づいて行き先を変えながら送迎と付き添いを行い、付き添いボランティアの参加も継続しました。

8月には伊丹の花火大会に合わせて屋上庭園でビアガーデンを開催し、近隣住民の方100名超のご参加を頂き大盛況となりました。その他、年末のもちつきにも近隣の子ども達が参加され地域の拠り所として再認識していただきつつあります。

取り組んだ内容については、引き続き Instagram や TikTok 等 SNS でタイムリーに発信しご家族や地域住民の方に活動を知っていただくだけでなく、YouTube で機能訓練の取り組みを福祉関係者にも広報するなど新規利用検討時の参考にも活用しました。

2、令和6年度重点項目

効率性の高い業務体制の構築と ICT 化の推進

(1) 法人全体の取り組みの一つでもある、「介護DX化」の実現と、厚生労働省が進める介護現場における「生産性向上」の推進に取り組みました。

介護サービスが常時必要な、特定施設入居者生活介護契約の入所者を3階フロアに、常時は介護が不要な一般入所者を4階フロアに移動していただき、

配置人員に限られる夜間は3階に介護人材を集中させ、4階は配置しない状況にしました。見守りが手薄となった4階一般入所者の居住スペースには、共用部にAIカメラを設置し、人感モニターシステムによりパソコンやスマホによる遠隔見守りを行い、同時に導入したインカムシステムを活用して職員間の情報伝達を密にし、全体的に同じ人員配置でも重度化の進んだ介護現場に効率的にアプローチ出来る方法を構築しました。

また、診療所医師と連携を図り、1件の看取り介護について対応できました。

(2) 各食堂に大型テレビを設置し、機能訓練指導員がYouTubeの運動等WEBサイトを活用してデュアルタスクを取り入れたコグニサイズの実践を行いました。また、機能訓練指導員不在時にもテレビのリモコンで簡単にYouTubeを操作できる為、入所者が自主的に体操動画を操作しユニット毎に体操を行う状況も定着してきました。また、敬老祝賀会等のイベント時に各フロアでイベントのYouTube生配信を行い、会場に入りきれない方も同時に雰囲気を楽しむようになりました。

(3) 今年度末の特定契約入所者平均介護度は2.3となり、養護老人ホームとしては、かなり重度化していると言えます。この状況に対し、職員の介護技術向上に向け取り組みました。

法人の取り組みとして新人教育用に介護ラダーシステムは導入されましたが、新任職員が配属されず、逆に元特養介護科長が配属となった為、直接的なOJTやコーチングなどが可能となりました。また、正規職員を非常勤職員のアドバイザーとして担当させるなど計画的な指導体制を確立しました。さらに、機能訓練指導員との連携により新しい福祉機器のデモや使用法の研修機会を増やし重度化への対応を行いました。

(4) 要援護高齢者短期入所事業について、今年度の新規依頼数は22件あり、月を跨いで利用された継続依頼が29件、退所・辞退後の再依頼2件についても全て受け入れを行い、対応受入率は100%となりました。

また、近隣の地域包括支援センターや病院、診療所、地域ケア会議などに職員が出向いて養護老人ホームや要援護高齢者短期入所事業の入所要件や活用方法について啓蒙活動を行いました。

3、地域公益事業

地域ぐるみでの子育て、子育て支援

永寿園とよなかの理念「その人らしくここで・・・」をモットーに、地域共生社会実現の一環として、入所施設機能だけでなく、地域の方々も利用する公共施設としての役割を担えるよう努めました。地域交流スペースにて福祉委員会主催の「ぐんぐん元気塾」を定期開催するとともに、地域の会合や子ども会のイベントに利用していただくなど、施設機能を地域の社会資源として活用しました。また、介護・医療・栄養・保育の職員連携や消防署や地域の講師のご協力により地域公開講座のプログラムを7回開催しました。

保育での園庭解放定期実施や、地域交流室での子育てサロン「ももちゃん」の定期開催でも子育て支援を継続しました。

さらに、普段から不登校児を受け入れる場所としてサークル活動室を解放しました。複数回の利用があり、利用者には、もえふあーむでの農業体験にも参加してもらえました。また、学校の長期休業期間に中間独居となる児童のために地域交流室を開放し第2の居場所となるよう努め、高齢者だけでなく、一般の方、育児を行う保護者や児童にもアプローチする体制の構築を図りました。

4、施設管理

開所11年目を迎え、経年劣化に伴う建物設備等の不具合が断続的に生じ、特に外壁、ベランダ裏側などに塗装の剥がれやひびなどが目立つようになってきました。これらについては日常のメンテナンスを継続して随時報告しております。

厨房系統の給湯器2台について、標準燃焼可能時間を超えた利用となり、リモコンにも不具合を生じた為交換を行いました。前年度から市と協議して交換を予定していた小荷物昇降機の更新については、昨今の世界情勢不安定による半導体不足で部品調達が出来ず見送りとなっております。

その他、積極的な新機能の追加としては、前述のAIカメラ11台設置や4階・3階フロアへのWi-Fiアンテナ設置、保育園入口のカメラ付きインターフォンの整備等を行いました。

5、労務管理

今年度から生産性向上委員会を中心に5Sの視点で職場環境の見直しを行い、倉庫やバックヤードの整理整頓、不用品の廃棄などを行い職場環境の整備

に努めました。

介護の重度化に対応する為、新しい介護補助機器のデモや研修を積極的に行い、インカムや見守りカメラ導入と介護記録システムの連動などで介護職員の負担軽減と生産性の向上を図りました。

また、特養で特定技能外国人の受け入れや、日本語学生の受け入れを先駆的に行い、精神疾患やコミュニケーションに問題のある利用者が多い養護には、日本人職員を配置しなおす等で人手不足に対応しました。

管理者からの職員面談に加え、正規職員のアドバイザー選任・担当制により、日々の業務における不安・要望などを気軽に相談しながらタイムリーに改善を図り得る風通しのよい職場環境を整えました。